

# 令和3年度千葉市一般会計・特別会計歳入歳出決算及び基金運用状況審査意見の概要

## 一般会計・特別会計歳入歳出決算

### 審査の結果 [意見書P. 5]

各会計の歳入歳出決算及び政令で定める書類は、重要な点において、法令に適合し、かつ正確であると認められた。

### 審査における意見 [意見書P. 23-25]

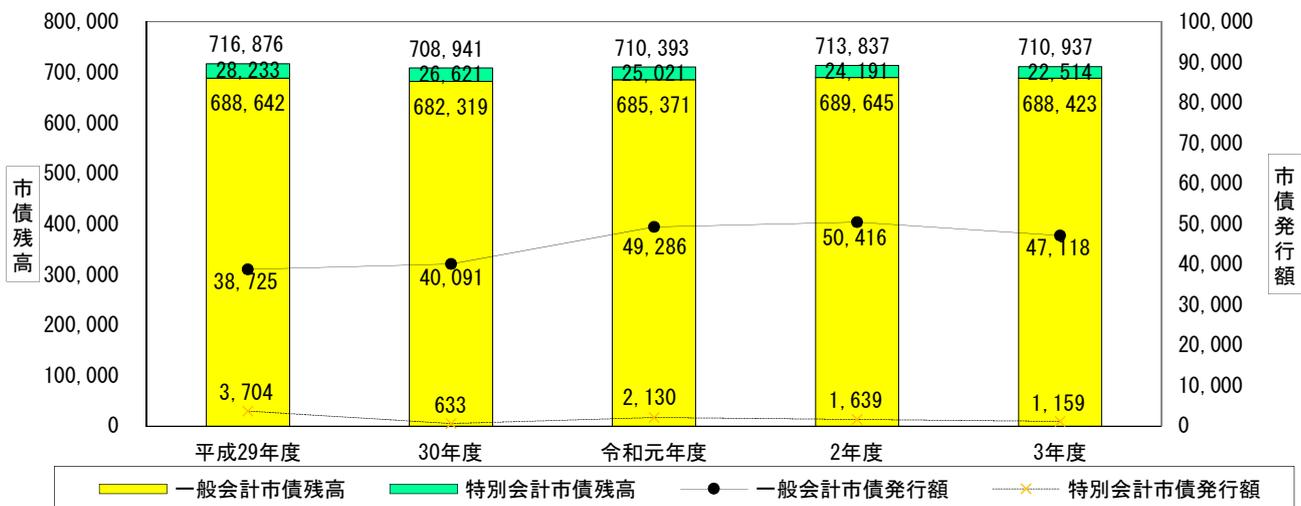
#### 1 財政状況

- (1) 令和3年度決算においては、新型コロナウイルス感染症対策等として一般会計において計14回の補正予算を編成し財政規模が拡大したが、国の財源措置等を有効に活用し、効率的な予算執行に努めた結果、前年度より減少したものの、約30億円の実質収支を確保している。また、令和3年度は「第3期財政健全化プラン（平成30年度～令和3年度）」の最終年度であったが、主要目標として掲げた主要債務総額の削減について、適正規模の市債発行、債務負担行為設定（建設事業分）の抑制、基金借入残高の削減に努めたことから、削減目標を超える結果となった。
- (2) 既に着手している新庁舎の整備のほか、新清掃工場の整備や多くの公共施設等の老朽化対策等に多額の財政需要が見込まれ、今後は市債発行額の増加が予測されている。さらに、少子・超高齢社会の進展や保育・子育て環境の向上に伴う社会保障関係経費の増加が見込まれる中で、引き続き新型コロナウイルス感染症対策と社会経済活動の両立を図る必要があり、本市の財政運営の先行きは不透明な状況にある。
- (3) 今後の財政運営は厳しい状況が見込まれるが、これらの課題に的確に対応しつつ、本市の発展につながる未来への投資については、将来負担の抑制とのバランスを取りながら着実に推進し、将来にわたり持続可能な財政構造の確立に努められたい。

(百万円)

市債発行額及び残高の推移

(百万円)



#### 【参考】全会計市債残高

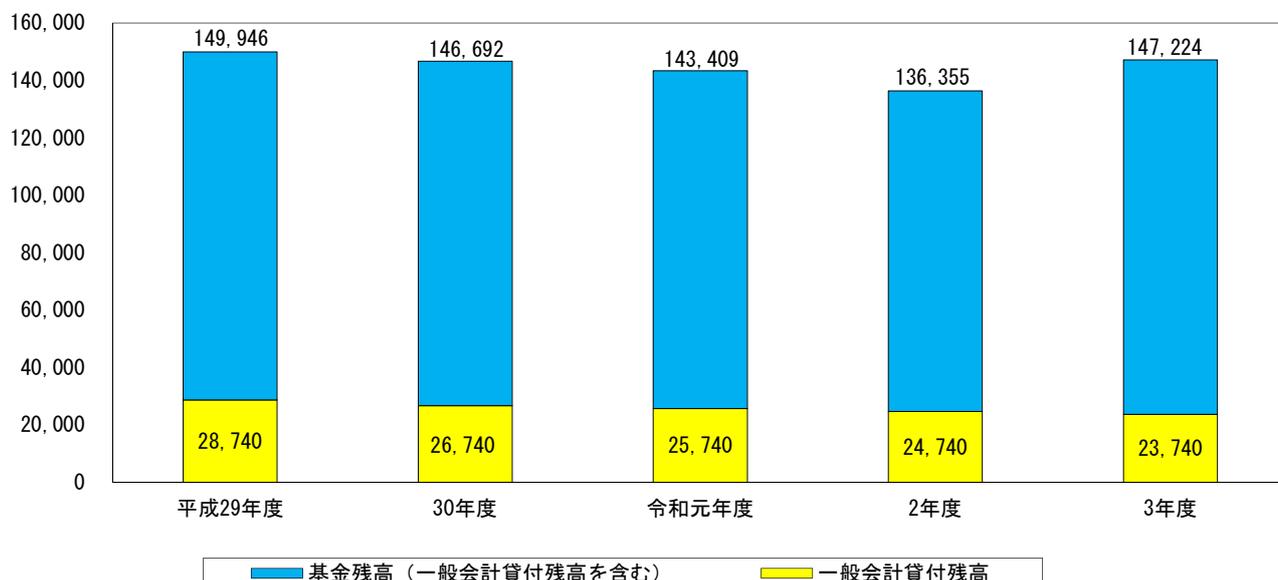
(単位:百万円)

平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
994,148	979,064	973,235	970,084	962,576

## 2 財産管理

- (1) 公有財産においては、学校教育施設、市営住宅などの公共建築物や道路、下水道施設などのインフラで、老朽化対策、人口減少等による利用需要の変化、財政負担の軽減・平準化、効果的な施設の再配置など様々な課題を抱えている。本市では、公共施設等の維持管理・更新について、計画体系の整理や数値目標の設定をするなど「公共施設等総合管理計画」の見直しを令和2年3月に行い、同計画に基づき「個別施設計画」を令和4年3月に更新しているが、今後も、これらの計画に基づき、総合的かつ計画的な管理等に努めるとともに、資産経営の最適化を推進されたい。
- (2) 基金においては、財政調整基金の状況を見ると、新型コロナウイルス感染症への対策に係る財政需要に対して、国費等を優先的に活用したことなどから、出納閉鎖期日現在の基金残高についても増額となっている。しかしながら、令和4年度予算では、市税等は増収を見込んでいるものの、扶助費等の増加により、同基金を70億円取り崩すこととなっている。
- (3) 基金から一般会計への貸付残高は削減が続いているものの、いまだに多額となっている。それぞれの基金は、特定の目的のために設置されたものであり、その貸付けが長期にわたり、かつ、多額となることは、基金本来の目的の達成に支障をきたし、基金の存在意義が問われることとなるため、確実に貸付残高が解消されるよう努められたい。

(百万円) 基金残高と一般会計貸付残高の推移 (3月31日現在)



※ 年度末(令和4年3月31日現在)における基金から一般会計への貸付残高は237億4,000万円であるが、出納閉鎖期日(令和4年5月31日現在)の貸付残高は、出納整理期間中に一般会計が市債管理基金へ34億6,000万円及び市庁舎整備基金へ5億4,000万円返済したことにより197億4,000万円となっている。

【参考】出納閉鎖期日(翌年度5月31日現在)の基金残高 (単位:百万円)

区分	令和2年度	令和3年度	増減額
全基金残高	146,999	159,189	12,189
(うち財政調整基金)	(12,811)	(18,959)	(6,148)
一般会計貸付残高	23,740	19,740	▲4,000

### 3 むすび

- (1) 本市の財政状況は、歳入確保や効率的な行財政運営等、財政健全化に取り組んだ結果、主要債務総額の削減は、削減目標を超える結果となり、健全化判断比率等の各比率も着実に改善してきた。
- (2) 今後は少子・超高齢社会の進展や公共施設の老朽化対策等により、財政需要の増加が見込まれており、新型コロナウイルス感染症の終息が見込めない中、今後の景気動向も不透明な情勢であり、税収減や財政調整基金の取崩し額の増加が懸念されることから、本市財政運営の先行きは予断を許さない状況にある。
- (3) このような状況の中、令和4年3月に「中期財政運営方針（令和4年度～令和7年度）」を策定したところである。今後は同方針に基づき、基礎的財政収支（プライマリーバランス）の均衡などに主眼を置いて財政運営を進めていくこととなるが、引き続き、市税収入等の確保や産業育成による税源の涵養など、あらゆる歳入確保の取組を推進するとともに、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける市民や事業者への支援を始め、市民生活の維持・向上に必要な行政サービスを実施し、事業の選択と集中により歳出の抑制に取り組むことで、持続可能な財政構造の確立に努められたい。
- (4) 最後に、令和5年度から始まる中長期的な市政運営の基本方針となる基本計画及び同計画に基づく具体的な事業内容を示す実施計画の策定を現在行っているが、行政改革推進指針や中期財政運営方針などと連携し、本市の持続的発展に向けたまちづくりを着実に推進することを要望する。

#### 主要債務総額の状況

(単位：千円、%)

区 分	建設事業債等残高	債務負担行為 支出予定額 (建設事業分)	基金借入金残高	主要債務総額
令和3年度	429,601,865	9,664,358	19,740,000	459,006,223
令和2年度	433,901,944	10,599,731	23,740,000	468,241,675
増 減	△4,300,079 (△1.0)	△935,373 (△8.8)	△4,000,000 (△16.8)	△9,235,452 (△2.0)

#### 【参考】

(単位：千円、%)

R3 年度 目標値	446,800,000	10,500,000	22,700,000	480,000,000
--------------	-------------	------------	------------	-------------

(注) 平成29年度以降、国民健康保険事業累積赤字額はなくなっている。

### 美術品等取得基金運用状況

#### 審 査 の 結 果 [意見書P. 71]

重要な点において、運用状況報告書の計数は、正確であり、また、基金の運用が確実かつ効率的に行われていると認められた。